

たまがわ びと

多摩川流域の水と緑に深く関わっている方から、お話を伺うコーナーです。

第11回

高橋 孝次さん (菅のらぼう保存会会長、菅郷土資料館 館長)

今や川崎のブランド農産物。 “のらぼう菜”を守り続けていきたい。

2月下旬～5月初旬まで、菜の花になる前の新芽を、5回ほど収穫でき、地元の学校給食にも使われています。



平成13年に菅の特産品として守ろうと、21人で会を作って13年。現在、会員は13人。2～3月の青菜の少ない時期に、栄養価の高い青菜として、評判が高まっている。菅地区だけでなく今や川崎ブランドとして育つようJAセレサ、市経済局農業振興センターの応援もある。

鎌倉時代の武将稲毛三郎重成が北条元子(源頼朝の奥方北条正子の妹)を嫁にもらった。その時の親衛隊が菅の地に移住して、「のらぼう」の種子を多くの食料種子と



一緒に持ち込み菅の地に根付かせたという。菜種油として戦前までは食用油、灯明の油としても使われた。

この地は繰り返し多摩川の大洪水に見舞われたので、どこの農家も家屋の周りに石を積み「石垣」を造り、その上にお茶の木などを植えて、流されないようにした。明治になって長十郎梨の栽培が始まり、大正、昭和になって桃の栽培が盛んになった。

今は住宅地となった空間(約1反部)に、のらぼう菜2,200株植えてある畑を見せていただいた。のらぼう菜収穫後、6月から11月は田んぼとして稲作を続けている。



繋がる、広がる
多摩川の輪

Vol.11



次代に残そう多摩の里山 日向山うるわし会

日向山うるわし会は「次代に残そう多摩の里山」を合言葉に東生田緑地(日向山の森)の保全・整備などの管理活動をして、今年7月で14年目を迎えます。

春はキンラン、ギンランなどの花が咲き、鶯などいろいろな野鳥の鳴き声が歓迎してくれます。近郊の小・中・高等学校が自然学習やボランティア活動の場として利用し、また大勢のハイカーが訪れます。

イベントは毎年1月に「ひなた山ぼっこ祭り」を開催し、新春の里山の自然と味覚を楽しみ、秋は竹細工、ネイチャーゲームなどで色づいた里山で遊びます。活動日は奇数月・第3土曜日、偶数月は第3日曜日で時間は午前9時30分～11時30分で、作業後は懇親会を開いています。ご一緒に快い汗を流しませんか。

編集後記

新春。お雑煮、お節料理、初詣、七草粥、鏡開き、どんどん焼き、など日本のお正月伝統文化がだんだん薄れつつあるが、四季のはっきりしている気候風土、日本ならではの先人の知恵や思いを再確認したい。大自然の中で生かされていることに感謝し、暑さや寒さ厳しさをもっと感じて日々生活したいと考える年の始め。しかし、歳の所為にしたいくないが正月明けに風邪気味とは情けない、今年一年頑張れるのだろうか？



- アクセス
JR南武線・小田急 登戸駅 徒歩10分
JR南武線 宿河原駅 徒歩15分
※駐車場はありませんので、車でのご来場はご遠慮願います。
- 開園時間
午前10:00～午後4:00
6月～9月の土・日・祝日
午前10:00～午後5:00
- 休館日
毎週月曜日
(月曜が祝日の場合はその翌日)